

行事報告

第11回 セラミックスの基礎学問研修会を受けて

2020年11月12日、13日に日本セラミックス協会中国四国支部主催の第11回セラミックスの基礎学問研修会が、共催である学校法人加計学園岡山理科大学の50周年記念館で開催された。

本年は新型コロナウイルスの感染拡大という状況にあったが、延べ人数90名を超える方が参加され、盛況のうちに幕を閉じた。

- 講義1 「セラミックスの概論」
岡山大学大学院環境生命科学研究科
教授 難波 徳郎 様
- 講義2 「合成の基礎1 セラミックス原料としての微粉末合成」
岡山大学大学院環境生命科学研究科
教授 亀島 欣一 様
- 特別講演 「セラミックスとしての耐火物の歴史と開発動向」
品川リフラクトリーズ株式会社
常務執行役員 小形 昌徳 様
- 特別講演 「耐火物について」
黒崎播磨株式会社 技術研究所
共通基盤研究センター長 合田 広治 様
- 講義3 「ガラスの特性と構造」
岡山大学大学院環境生命科学研究科
准教授 紅野 安彦 様
- 講義4 「合成の基礎2 液相合成」
岡山大学大学院
ヘルスシステム統合科学研究科
教授 早川 聡 様
- 講義5 「粉体・構造体評価 セラミックスの機械的性質」
岡山大学大学院自然科学研究科
教授 岸本 昭 様
- 講義6 「合成の基礎3 薄膜合成」
岡山大学大学院自然科学研究科
教授 藤井 達生 様

私が最も感銘を受けたのは小形様の講義であった。入社して2年目、「耐火物とは何か」の外枠を理解できるようになった。耐火物はHidden Industryと呼ばれるように、目に見えない産業であり、花形産業の製鉄の川上にありながら、陰に潜んでしまう産業である。

これは、生産量の全国シェア約3割以上を誇る備前地域においても同じことが言える。「耐火物って何なの？」こうした疑問の声も多く聞く。

単にロウ石の鉱床が三石にあっただけでなく、幕末から明治の歴史的背景、そして一大産業に発展させた人物、これらが三位一体となって備前地域が一大耐火物生産地になったことが、本講義において紹介され、深く理解できた。

現在、日本における耐火物を取り巻く現状は、粗鋼生産量の減少、新興国の追い上げなど厳しい状況である。

しかし、使用後耐火物のリサイクル、来る水素還元による製鉄への遷移など、紹介のあった野村修氏の言葉を借りれば、「耐火物の世界はやるべきこと、やれることが山ほどあります」ということに共感し、耐火物の明るい未来を想像した。

次の世代を担う若手技術者を創出するため、「耐火物って何なの」かを広く周知することを私の使命として、微力ながらも尽力したいと考えた。



「セラミックスとしての耐火物の歴史と開発動向」



「耐火物について」

(主事 真田 意索)